

Ⅳ. INISコンピューター・サブグループに参加して

磯田和男 (日本原子力研究所)

INIS (International Nuclear Information System)

についてはすでにいろいろ報告が出ているようですので、くわしくは申し上げないことにします。

3月初めからIAEA各国からドクメンタリストが集まってINISチームというのを作り、ドクメンテーションの立場から討議を重ねていたのですが、実際にコンピューターを使うという面でプログラミングやオペレーションについてのいろいろの推定をし、プログラマーのマンパワー、マシンタイム等の目算をたてる必要があるので、4人のプログラマーがコンサルタントとして協力しました。メンバーは次の通りです。

エルハルト・チェルノステル

(ブラハ, メディカル・エレクトロニクス研究所)

ジム・ギルクリスト

(オークリッジ, ユニオン・カーバイド)

エリザベス・バラクロフ

(ニューキャッスル大)

磯 田 和 男

(原 研)

しごとの進め方は、まずドクメンタリスト側のレポートを読み、IAEAでどんなプログラムを

用意したらよいかを討論しました。5月6日から5月末までかかりました。その大部分は文献のダブリのチェック、ナンバリング、キーワードに対するソースチェックです。最後の点ではかなりユーラトムのソースが重要な役をはたすことになると思います。なかなか4人の意見が一致することは困難で2対2にわかれてどなり合うこともしばしばでした。といってもこれはしごとの上のことで、なかよくやっていたのですからご安心願いたいと思います。特にチェコの人と話していると、チェコの自由化は相当なもので、この流れをとめることは困難な感じがしました。

なおわたくしの出張についてはENE Aから旅費の援助があったので、その受取りをかねて、イスブラのプログラム・ライブラリーとサクレーのセンターを訪ねました。あいにくパリは例の大混乱の終りの時期で、イスブラではENE Aと連絡がとれず、給料も遅配のありさまでしたし、サクレーの研究所の方はストライキをしていてセンターの入口側の門は閉鎖されているので不便なようでした。センターの人たちは余りINISには関心がないようにみえたのでちょっと困ったのですが、ENE A本部のペレー氏によれば、気にしない、気にしないという話でした。余談になりますが、サクレーの研究所の方の計算機の規模の大きくなっているのにはおどろきました。コントロール・データの6600とIBM360/75+50のASPシステムの二つで、6600の方はハイエナジーフィジックスで90%使っており、モデル75が一般の計算を受けもっているのですが、ライトペン付のディスプレイやマイクロフィルムレコーダー、タイムシェアリングのターミナルが接続されていました。本年末にはモデル75をモデル91に交換し、データ通信設備を拡張してカダラッシュともオンラインで接続する予定とのことで、うらやましく思いました。

ストライキのためパリとの往復は全部センターの人がしごとを犠牲にして自動車で送りむかえをしてくれたので、感謝の外はありませんでした。